

24/10/11 名古屋市議会経済水道委員会総務環境委員会連合審査会（その1）  
名古屋市民オンブズマンによる、半自動文字起こしアプリによる文字起こし

委員長 丹羽ひろし（自民・名東区）： それでは、ただいまから経済水道委員会総務環境委員会連合審査会を開会をいたします。本日は便宜上、私が委員長の職務を行いますのでよろしくお願いをいたします。

初めに本日の大連合審査会は名古屋城バリアフリーに関する市民討論会における差別事案に係る検証委員会からの最終報告を踏まえ、今後の人権施策を議論していくために、名古屋城天守閣、木造復元事業の進め方に対する認識について、経済水道委員会の意見を聴取したい旨の総務環境委員会からの申し入れを受け、掲載するものでありますのでよろしくお願いをいたします。

それでは本日の案件に入ります本日は松雄副市長、観光文化交流局、スポーツ市民局および総務局にご出席を願い名古屋城バリアフリーに関する市民討論会における差別事案に係る検証委員会からの最終報告を踏まえた名古屋城天守閣木造復元事業の進め方について調査を行います。

それでは、各委員からご質疑等があればお許しをいたします。

小出昭二（自民・中村区） 松雄副市長大変お忙しい中ご出席をいただきましてありがとうございます。私は今回のような問題で松雄副市長に厳しい質問をしなくてはいけないことをとても残念に思っております。しかしながらこの度の差別問題において大きく心を病んでいる障害者の皆さんのためにも、名古屋城の進展のためにも事実をしっかりと追及することが大変重要なことだと思っておりますので、本日は徹底して質問させていただきたいというふうに思います。

それではまず初めに検証委員会の結果を踏まえて、人権問題差別問題にしっかり対応した上で、名古屋城天守閣の木造復元事業を進めるにあたって松雄副市長に質問させていただきます。

この度の差別事案に係る検証委員会の検証結果を踏まえて当然真摯に対応されていると思いますが、まずは松雄副市長の認識をお聞かせいただきたいというふうに思います。

松雄副市長： 令和6年9月の18日に出了た最終報告でございます。

当然私もしっかり読まさせていただきましたし、元々私は民生局の出身でございますので、最初の第1の人権プランも民生局の職員としてまとめたものでございますので、この問題についてはあの本当に自責の念に耐えないということでございますし、また差別を受けた方に本当に申し訳ないというふうには思っているところでございます。

その中で一番終わりのところの最後のページにも書いてございますように、市長それから所管の副市長および職員の間で適切かつ十分なコミュニケーションが通じて事業推進から具体的な考え方をきちんとまとめなくちゃいけないと、裏腹に考えれば、この3者で意見が

バラバラで行ってしまったということについてはやっぱり深いあの反省をしなくちゃいけないというふうに思っております。

それからもう一つ、障害者をはじめ様々な立場の市民の人権に関わる事業を推進する際には、当事者の意見を真摯に聞くとともに建設的な対話を通じて当事者の真意をしっかりと捉えまえながら、事業実施されたいといったことにつきましても、大変重い指摘だというふうに思っております、このところをしっかりと捉えながら私自身の行動しこれからも実施していきたいというふうに思っているところでございます。

渡辺やすのり（自民・北区）： すいません。先ほどですね総務環境委員会で松雄副市長が作られた文書、これ行政文書であると確認が取れたわけですが、実際これもう本当に真っ黒で何も見えないという状況ですが、そもそもこういうこれはこういった内容なのか教えていただくことができますか。言える範囲で結構です。

松雄副市長： この内容でございますけれども情報公開条例に基づきまして、今回、大変恐縮ではありますけれども、黒塗りの状況で提出をさせていただきました。

この内容につきまして明らかにすることはできないというふうに思っておりますので、ご了承賜りたいと存じます

渡辺やすのり（自民・北区）： ではこれ内容は公開できないと伝えることができないということですが、そもそもこれなぜ作ったんです。

松雄副市長： 令和6年の3月の8日でしたか、浅井先生と本会議で質疑があったわけがありますけれども、そのときに私はもちろん検証委員会の最終報告書が出る前にあっても、障害者の方々のところに出向きまず謝罪をし、そしてどう言ったらこういういわゆる前のような再開ができるのかということをとにかくやりたいというようなお話をさせていただきました。

二度答弁をいたしまして、浅井先生も副市長の気持ちはわかったといったようなご答弁をいただいているわけではありますけれども、そうした中で障害者の方、団体ではなく障害者の方といろいろ打ち合わせをする機会がございました。

もちろん謝罪もいたしました。

今回のものにつきましては私の方から提案したわけではなくて、障害者の方の方から一度勉強会しようよといったようなお話がございまして、そこには乗るような方たちで意見交換をしてきたわけがありますけれども言って、どこまで要するに合意、意見の一致ができたかどうかについてまとめてみましょうというような話でございまして、一回まとめてみましょうということで文書が作られた、内容は申し上げませんが経過はそういうことでございます。

小出昭二（自民・中村区）： これ今の松雄副市長が言われたことをどうして副市長が何か、一人で勝手にやってるんですかこれ。あの当局の人たちはみんな共有をしてみんなで合意をして、みんなでこういう方向で進めよう、こういう形でやっていこうっていうようなことを認識してやったんですかこれ。

松雄副市長： 佐治局長も、私もあの本会議の中では最終的なやっぱり報告検証委員会の報告が出て、そして総括をして、事業を実施しなくちゃいけないとこれは私も同じようなことでもございましたけども、私はその前にやはり人間としてどうしてもこれだけ大きな過ちをいたしましたので、障害者の方に謝りをして、そして障害者の方のじっくり意見を聞くと、これは検証委員会の最終報告でも書いてありますので、そういう姿勢でやってきたということでもございます。

一方で、観光文化交流課は観光文化局の立場をございますので、謝罪も含めて全てが終わった後ではないとなかなか障害者の方とは接触はできないということでもございますので、私が少しフリーな立場でありましたので、障害者の方にお会いをして謝罪をしながらこういうふうに進めてきたということでもございます。

小出昭二（自民・中村区）： フリーな立場って、どういうことですかそれ。何をやってもいいという立場ですか、フリーということは、それはいかんでしょう、副市長として名古屋市の方針を、名古屋市の方針を破っていいんですか。フリーなんですか。あなただけ勝手なことやっていいんですか。

松雄副市長： ですから先ほども答弁いたしましたように、3月8日の浅井先生との本会議の質疑、これが私の中では全てでございます。（他人のせいにしゃ駄目だよ）

少し振り返りますと浅井先生、これが全てでございます、全てでございます、検証委員会が出る前にでもどうしても謝罪をさせていただきたいと、これだけ大きな問題をやりましたので、やっぱり何とか謝罪をしてご意見を伺いたいということが全てでございますので、これを私自身やったということでもございます。

議会の答弁も二度させていただいて、ご理解をいただきながら実施をできたというふうに認識をしております。

小出昭二（自民・中村区）： 副市長本当に恥ずかしい言い訳をしていただくのはもう聞いてる方も辛い。

当然、あなたがそういうような考えであれば、名古屋市として新たな方針を決定して、今言われたような方向性がいいんだということで、担当局と考え方を共有してそのように進めていけばいいじゃないですか。

どうしてそんな裏工作のようなことを何故しなくちゃいけないんですか、どうして堂々とやらないんですか。

松雄副市長： これは確か経済水道委員会のところで資料の質疑があったというふうに思っておりますけども、確か私の記憶にはないんですけども、3月の12日に私の方から観光文化交流局に障害者の方から、史跡とバリアフリーの勉強会についてしたいというような私の方に要請がありましたので、これについてやれるかというふうに観光文化局にお尋ねいたしましたところ、やはりやれないと局長からも私のところに来て、そうかということになりましたのでこれ以上やはり観光文化交流局を巻き込むことはできないと。

でも一方で、障害者の方々にはやはり意見もできないのかと、要するに聞くこともできないのかといったような声も頂戴をしておりましたので、私が前にいって意見を聴取してきたということでございます。

小出昭二（自民・中村区）： そんなことであれば、堂々とですね、表に立って議会にも理解をしていただいてやればいいんであって、何もそんな裏工作のような詰め方をやる必要性はないなというふうに思うんですけど、この文書総務環境委員会で行政文書というようなことの認識だということになったようなんですけど私もこの文章は持っています。

持っていますここに。それで非常にですね内容を拝見をして、驚きの内容というか愕然とするんですけど、どんな内容だということは、松雄副所長が一番よく知ってるというふうに思うんですけど、基本的なその合意内容についてはどのようなことが書かれてるか教えていただけませんか。

松雄副市長： 今回私の立場からすれば、公にすることはできないという形で文書を黒塗りにさせていただいておりますので、内容についてはお答えできません。

また現在のところは、今回先生がお持ちの資料とは全く違うような内容でご意見を頂戴しておりますので、まさに要するに途上の文章だということでございますので、内容について触れることは差し控えさせていただきたいと思っております。

小出昭二（自民・中村区）： これはどなたが作られたんですか。

松雄副市長： いろいろ意見交換をさせていただいてる中の方々と一緒に、私は文章を作りましたが、みんなでこういうことだったかねという形で作らせていただきました。でも内容は今は全く違います。

小出昭二（自民・中村区）： 今は全く内容が違うかどうかわかりませんが、このような意向を進めてたということにおいては違いないというふうに思いますので、それも非常に残念な言い回しだなというふうに思いますが、私ここに文章がある中において、その合意事項のところですね、市は天守閣木造復元に当たり健常者と同じように天守最上階に上り、最上階から景色を眺めたいという障害者の方々の気持ちを十分理解し、実現を図るという合意

内容のものがあるんですが、これは今は全く違いますと言われましたが、これは違う、もう今違っているんですか、今も一緒なんですか。

松雄副市長： 文章としてはほとんど違うものになっております、現時点では。

小出昭二（自民・中村区）： どうして最上階を実現をするというようなものからほとんど違ってるもの、ほとんど違ってる内容もお聞かせいただきたいんですけど、どういう経緯でほとんど違うどういう内容に変わったか教えてください。

松雄副市長： ですから今回は団体の方と議論したわけではなくて、団体には所属しておりますけれども、団体の枠を超えて個人という形で障害者の方と私とでフリーに意見を交換をいたしましょうと。

そして私は意見を聞く立場でございますので、様々意見がある面では黙ってですね、の機会が多かったと思いますけど、そう聞いてきたというようなあのことでございます。

ですから、意見の内容によっては、それぞれやっぱり立場と申しますか、意見の隔たりがありますので、内容についてはどんどん変わっていくということございまして、まさに途上の文章だということでございます。

小出昭二（自民・中村区）： 途上の文章だといえどもですね、根本的な方向性が変わるということはないんですけど、ちょっと私のあの質問にお答えをいただけてないんですけど、最上階までエレベーターを実現するというようなところからどういう形にこれは途上か、どういう形に変わったんですか。これちゃんと教えてください。

松雄副市長： それは、障害者の皆様とも今回の具体的な内容についてはお話をしないということでございますので、お答えしづらいと思います。

小出昭二（自民・中村区）： そうしましたら、これは松雄副市長が個人で勝手に当局とも相談をせずに合意を取り付けてそのような方向で自分のご意思のみで、行政サイドでは物事を進めようとしたということですか。

松雄副市長： いやですから、全く合意してるわけではなくて、まさに意見が（合意を進めていること、）

いや、合意はしておりません。

小出昭二（自民・中村区）： 進めてるという作業してるでしょ。

松雄副市長： 最終的にまとまるんだったら、一緒のものにまとめましょうということはありませんけれども、合意を目的にしているわけではなくて、仮に意見の隔たりが大きくて合意ができなくてもそれはそれとして成果だというふうに思っとるんです。そういうことでございます。

横井利明（自民・南区）： 今小出さんが言ったのは、あの松雄さんが単独でやっていたんですかって聞いたんです。

これは具体的に言うと、担当である観文局長と一緒にやっていた、または人権担当と一緒にやっていた、プラススポーツ市民局だねということなのか、松雄さんが単独だったのかと聞いてるんです。話を逸らさないでください。

松雄副市長： 観光文化局には申し上げておりませんので、市長にはいろいろ経過はご説明いたしておりますけれども、私の単独で実施をしております。

横井利明（自民・南区）： それが目撃なんですよ。まさにこの人権のこの研修を受けてそれ言われているじゃないですか。あなた方がバラバラでやってるからこういうことになるんだと言ってね、市長もバラバラ、副市長もバラバラ、局もバラバラみんなバラバラだから、お城の方々が困って戸惑ってそしてこういった混乱に繋がってるじゃないかって言って、検証委員会で言ってるじゃないですか、言ってる最中に何やってるんですか。

観光文化交流局長これ知ってましたか。

観光文化交流局長： 私は存じ上げませんでした。

横井利明（自民・南区）： 人権担当のスポーツ市民局長は知ってましたか。

スポーツ市民局長： 私も存じ上げておりませんでした。

横井利明（自民・南区）： それぞれこの話を聞いてどう思われた。

観光文化交流局長： 午前中の経済水道委員会の所管事務調査の方でもお答えさせていただきましたが、差別事案を受けましてですね観光文化交流局としては、対外的なその調整ができない状況でございました。

そういった中でこれは推測になるんですが、副市長が障害者団体との繋がりとかそういったことにつきましては、維持していく必要があるというお考えのもとにですね、ご自身の考えを自身のネットワークの中で、失礼しましたご自身の障害者の方々との繋がりを第一と大切にしなければいけないということの中でですね、ご自身のそのネットワークそういった中で、ご自身のお考えのもとでこういったその行動をこの段階で動かしたんじゃないかというふ

うに考えております。しかしながら局としては結果としてこう混乱を招いたということにつきまして、私としては困惑しているというふうにお答えさせていただきました。

スポーツ市民局長： この最終報告書で、先ほど横井委員がおっしゃったようにですね、最終報告書では市長、所管副市長および職員の間で適切かつ十分なコミュニケーションを通じて、事業推進に関わる具体的な考え方をきちんと共有するということが書かれております。そういったところで副市長は副市長のご自身の思いで、動かれていると思いますが、この最終報告書を見ますときちんと共有するということが書かれておりますので、その点については私はなかなか申し上げられませんが共有できていたかどうかということについてお答えしづらいますが、なかなか難しいところであったということで、大変申し訳ありませんが、本当に感じておるところです。

横井利明（自民・南区）： 要するにこの最終報告の中では、こういった事案が起きた一番元はあなた方がもうバラバラでやっているから、こういった問題が起きてお城の方も混乱してやっている中で、この事件が発生したと全く反省してないじゃないですか。今、観文局長からは困惑していると素直な発言だと思いますよ。

スポーツ市民局長からも難しい事案だという話もあった。私はねそもそもですよ、今回謝罪に行ったっていう、あなたの話がまず単独であったことがまず問題だと思う。きちんと共有してその中で行くべきであって行くんだったらだよ多分行くって言ったら多分止めたと思う、だってそんなことを約束してませんから議会と。きちんと検証結果が出て、名古屋市としてどうやって市民の信頼を得るのかっていうことをきちんと方向立てて、そして市民と行政と事業者との役割もきちんと決めた上で、その上で謝罪するって話だったじゃないですか。それがもう全部欠落しちゃって勝手にやっているから、みんな困惑してるわけですよ。

そしてもう一つはね、松雄さんは謝罪に行きたいと言った。今話聞いてると合意文書の内容は謝罪じゃないじゃないですか。これ内容を言えないとおっしゃるから浅井議員さんの質問これ借りると、合意内容っていうのは障害者団体は復元に反対しない。これ合意の一つ目。二つ目は、名古屋市は天守最上階に登れることを実現する。

三つ目は、名古屋市へのアクセスをバリアの塊と位置づけて、ユニバーサルデザイン検討会議を設置するこの3項目。どこが謝罪なんですかこれ。あなたは人権よりお城なんですよ。だからこうなっちゃったんすよ。いいですか。

なんで人権の検証結果が出るまで待てないんですか。なんで城が先に来るんですか。これはどこが謝罪なんですか。

言ってることが無茶苦茶だ。一度きちんと答えてください。

松雄副市長： もちろん議員がおっしゃられましたように、全部観光文化交流部の総括が終わって、そしてどういうふうに対応するかっていうことを決めて、スポーツ市民局も観光文化交流も決めて、障害者の団体のところに謝罪に行くというふうにおっしゃられましたけど

も、私のところには今回の資料の中でもメールもありますように、やはり聞く耳は持ってほしいと、やっぱり自分たちの意見もちゃんと聞いて欲しいと、会ってほしいといったような声もありましたので、観光文化交流局は移動ができないと折衝ができないと。そうしますとそういう方々の声は無視できないと私は思ったんですね。この人権という観点からもそれは無視にあたりますので、そこが障害者の方々とお話をしてても、一番やはり聞いてくれるっていうことが大事だというふうに思っておりますから、私はまずは謝罪をしてお話はちゃんと聞きますということをさせていただいたというだけでございます。

横井利明（自民・南区）： 私が何が一番悔しいか。スポーツ市民局はこの人権問題をきちんとこの名古屋に根づかせるために専門でもない名古屋城の問題を全部紐解いて莫大な量の調査をし関係者からの聞き取りをやり、そこに外部の有識者まで入ってみんな真剣にこの名古屋の人権を考えたんですよ。あなたのやった行為はそれを全部台無しにした。私はそう思ってる。検証結果の出る前に、何ですかこの内容は。何で城なんですか。私はね、この責任は重大だと思う。ましてや、あなたは謝罪だと言ってるけれども、何でこの問題が議会で流れてきたのか、なんで障害者の方々が怒ってこの合意文書案を何で議会議に流したんだと思いますかこれ。

本当に納得してるんだったら障害者の方々もお詫びしてもらって我々も心晴れたと思ったら、議会議にこの文書を流しますか。怒っているから流すんですよ。おかしいだろうとこんなやり方だと、だから流したんですよ、実際怒ってますよ。私はそういったことからすると、松雄さんがやったことってというのは取り返しのつかない障害者の方々に対する背信行為、名古屋市の人権に対する信頼を根底から損ねた。私はそう言って断言できるだろうと思います。ちょっと以下他の方にお問い合わせします。

さわだ晃一（公明・西区）： ちょっと私の方でお聞きしたいと思います。

時系列でね、いつ何がどう起こったかっていうことを、ちょっとまず整理をさせていただきたいんですけども、簡単に言うと当該文書メール、今合意文書という呼んでいますけど、合意文書が作成されるまでの経緯、これについて少しお聞きしたいと思います。総務環境委員会に出された資料の番号で申し上げていきます。

これ経済水道委員会にも同じ9月24日の議事録だとかそういうのって出されているんですか、委員長。

（もらっています。）ありがとうございます。ちょっとそれをもとにやりたいと思いますね。メールのやり取り黒塗りの部分の中で、順番に日付で見っていくと、2024年3月29日、参考資料3ですね。

参考資料3、松雄市長からメールを発信されたというのが2024年今年の3月29日に副市長の方からメールを発信されています。一応念のため確認しときます。これ間違いはないですね副市長。

「初めてメールいたします。名古屋福祉名古屋市副市長の松雄と申します」これが3月29日 次にてですね、時系列で言うと同じく資料を1ページ戻るのがかな。3月31日これは先ほど来、副市長がおっしゃっている聞く姿勢だけは持っていたきたいという先方からの返信が来た。これ間違いないですか。

松雄副市長： 間違いございません。

さわだ晃一（公明・西区）： ちょっと今委員の先生方のやり取りの中で、謝罪をしながら団体ではなく一部の方々と話す機会があった。この一部の方々と話す機会があったのはいつですか。

松雄副市長： 4月以降だと思っております。

さわだ晃一（公明・西区）： 言うことは聞く姿勢だけは持っていたかかないと言った後ですね、まずここで一旦これ先にアプローチしたのは、何かいろいろやり取り聞いてると、障害者の方からメールをいただいたんです。メールをいただいたんです。確か9月24日の本会議の中でも、いや私からじゃないというニュアンスで、おそらく議場にいた皆さんは受け止めていて、先方からメールをいただいたので、私は対応したんだという流れのように理解をしていますけれども、この資料によれば実は「初めまして、名古屋市副市長の松雄です」って副市長の方からアプローチしたっていうふうにこの資料では読めるんですけども、その事実関係についてご説明ください。

松雄副市長： これはちょっと浅井先生には恐縮ではございますけれども、やはりこの1年間ぐらいこの本会議におきましては、やはり私へのご質問についてよく承知ができていない。

例えば、普通の本会議で答弁するときには幹部会にかけ、そして全体で周知を図りながら答弁をいたしますけれども、私の場合は、特に浅井先生のご質問を神経集中して、その場の言葉で答弁をするっていうことではございますので、もし今沢田先生のおっしゃられたようなことがきちんとかういうふうになれば、確かにいただいたことに対して返信をいたしました。私が出したことに対して返信をいただきましたと言って頂戴しましたということになるんですけども、そこまで私も能力もないもんですから、そうした要するにきちんとかうするに、整理をした答弁にができないということではございます。ご理解を賜りたいと思います。

さわだ晃一（公明・西区）： そうすると、いやいいんですよ、その突然のことだからって、せっかくこういうオフィシャルな機会なので、一番先にメールを送ったのは松雄副市長というふうに答弁を修正していただくなら修正してください。この場で。

松雄副市長： でも議員、この私の議事録、皆さんもう、この前の議事録を持っておりましたけども、どこがいけないんでしょうか。いただいたことはいただいたわけてございますので、団体の方から、

さわだ晃一（公明・西区）： ごめんなさいね。質問の仕方が、別にちょっと雰囲気がこのように雰囲気なんてあれなんすけど、私が知りたいのは一番最初にアプローチをしたのはどちらですか。松雄副市長じゃないんですか。ただ、これまでの本会議のやり取りを聞いてると、先方からメールをいただいたので、いい機会だということで謝罪にしながらこうした文章の話一部の方々と話し合ったという印象を持っているかそうじゃなくて、一番最初のスタートは私からです、いやそうじゃないんですってという経緯を知りたいんです。

松雄副市長： 議員おっしゃる通りでございます、私が先にメールを差し上げて初めてでありますけども、そしてそこからメールを頂戴をしたということでございます。

さわだ晃一（公明・西区）： わかりました。松雄市長から先にアプローチをしたということですね。確認ができましたそれで、次に行かしていただいていいですか。次に検証委員会のヒアリングでも様々お答えを、副市長されておられます。ここには資料がないんですけれども、浅井議員も本会議の中で、その部分を引用されてね、いろいろお答えになっていきますけれども、検証委員会が作成の過程で当然市長にも職員にもヒアリングをしております、松雄副市長にも当然ヒアリングをされておられます。今年の5月30日検証委員会ヒアリング資料9ページ、市長の発言、これ委員の先生が、あの検証委員の先生がこうやって聞かれているんですね。市長の発言では誤解が深まると、エレベーターをつけるとかつけないとか、そういうことをおっしゃっていて、市としての情報発信の課題がありますよねという流れの中で、松雄副市長が答えているくだりがあります。それは「本当にあの初動が失敗した」というような流れの中で自分自身ね、松雄副市長自分自身は「障害者の方々との人脈が全くない。パイプ人脈ですね、これを全く作ってこなかったことは致命的なミス」とこのようにおっしゃっておられますが、これは間違いはないですよ、確認のため。

松雄副市長： 間違いございません。

さわだ晃一（公明・西区）： 次の質問で、同じようなことをね、配られた参考資料の中にも、市長にも局にもパイプがない、誰かがやっぱり話をしてどういうところだったらその話、謝罪だとかそういうことだと思んですけど、その話ができるのかというところをやるのが今の段階という記述もあります。ちょっと質問が変わってくるんですけどもこのパイプ人脈というのは、おそらく我々が思うパイプとか人脈の話というのは、例えば障害者団体の方

に会おうとした場合に、これね副市長の頭の中の話はどういうことを意識してこの人脈とパイプというのを使ったのかっていうことを聞きたいんですけど、普通は、一般的な構成員ではなくて、団体を構成する一会員とかではなくて、決定権を持ってるとの繋がりを我々はパイプとか人脈というふうによく使うですけども、どのレベルの方ですね、一構成員の誰でもいい知り合いと人脈っていうのか、ある程度のやっぱり団体を代表するような決定権を持つ必要な方とのことを意識して発言されたのかいかがでしょうか。

松雄副市長： まず私があの人脈がないっていう申し上げたこととございますけども、市長とそれからあの観光文化交流局は、一昨年のもしくは12月でしたか、市長とやり合っただけで昇降機もつけない、でも観光文化交流局は上までつけるといったときに私は割り込めませんでした。正直なところ。それは直接自分が障害者の方の意見を聞いていないので、観光文化交流局の言い分に対して強く、市長に対してですよ、反論する事ができませんでした。そこが私の致命的なミスだったなっていうのはそういうこととございます。そして人脈のことについては、ある程度自分もいろいろ介護保険制度とかやってまいりましたので、存じ上げておられる方ですけども、議員おっしゃるように権限を持った方が人脈だというような意識はありませんでした。

さわだ晃一（公明・西区）： ってことは、パイプというのは障害者団体そのものの意見を聞くパイプで、人脈というのは別にその決定権者ではなくて、誰との人脈なんですか。普通我々でいくと人脈というと、ある程度のごめんなさいね、ポジションにいらっしゃる方、そうじゃないとその人脈の意味がないですよというふうに聞くとそう思うんですけど、そうじゃないという答弁でいいですか。

松雄副市長： もちろん団体のトップの方とお知り合いになることは必要かもしれませんが必要なんでしょうけど最終的には、でもいきなりそこにはなかなか行き着けないもんですから、いろいろな方と障害者の方々と、部位でもたくさんありますので、だからそういう方々と一人もやはり自分が話すような人がいない、何か問題が起こったときにそういう話せるような人ができるような型を作りたいというような趣旨でございます。

さわだ晃一（公明・西区）： これ観光文化交流局長さんなんかもね委員会の答弁、委員の皆さん方もそうなんですけど、それから今日健康財政福祉委員会の中でも障害者差別の話をされてました。

普通に考えると、名古屋市そのものとしたって、これまで幾度となく障害者団体のこととお話をされすり合わせをし、特に名古屋城のバリアフリーなんていうのは、資料にも出て検証委員会の資料にもついてますけれども、あえてこれね中間報告から追加されて、最終方向に追加されているバリアフリーに関する経緯を事細かに資料が載せられているんです。それで

いわゆる話を聞くパイプがないという今のご答弁は極めて不自然だなというふうに思います。

しかも民生局ご出身ということなので、全く団体と関係性がないというのは、なかなか理解に苦しみます。

本当にここで副市長がああ念頭に置いていたのは、つまり問題を解決をするこの困難な状況の中で、それでも会っていただけて、かつ例えば差別発言を受けた方と繋がれるような方、そうじゃないと前に進まないですもんね。

単なる、単なるというすいませんね、それなりの決定権がない方々でもそれ意見聞こうと思っただけでも聞けます。そういうレベルの話では副市長というお立場から考えて、しかも他の局長にでも誰にも何も言わないで動くというのはそうした効果を狙って普通に動きますよね、ってことはそうした効果を背後にある団体に及ぼすことができる影響力のある人物にまず会おうとこういう文脈の中で、これまでの副市長のこのメールのやり取り、それから行動があると私は理解するのが普通だと思うんですけどそうではないというふうに今聞こえますけれども、その辺はちょっときちっとお答えください。

松雄副市長： もちろん差別発言を受けた方、人権に本当に侵害をしてしまった方に、当然に謝罪をしたいという思いは強く思っておりました。ですから、そこに関わられるような、あの方々にお会いをしたいというふうに思っておりましたけども、でもいかんせん、その方々、本当の謝罪をされたい方の、どういう繋がりは私はわかりませんでしたので、いろんな方にご紹介をいただいて、お会いをしたというようなことでございます。

さわだ晃一（公明・西区）： いろいろな方に紹介をして最終的にお会いになられたのは決定権がある方という理解でいいんですか。

松雄副市長： それは少しお答えをしづらいと思います。決定権がお持ちの方かどうかは私にはちょっとよくわかりません。

さわだ晃一（公明・西区）： そうするとこの文章ね、合意文書とされる中の一部の方々と先ほどのあの謝罪をしながら一部の方々とお会いしたと。その中で決定権がない相手と一緒に松雄副市長がこの文章を作って合意をしようという動きをされてたってことですか。それって可能なんですか。

松雄副市長： 議員がおっしゃっている決定権っていうのは私はちょっとよくよく理解をしてないんですけれども、もちろんこれまでのバリアフリーとか障害者政策を推進してこられた方だというふうには思っておりますけれども、その方に決定権があるかどうかまで、正直私も把握をしております。

さわだ晃一（公明・西区）： 言葉の定義をここで議論するつもりはありません。つまりもっと直接に言いましょう。

この参考資料の中にある3ページにメールの黒塗りのね、ある3ページの一番令和6年9月、空白〇日黒塗りが3本あって、名古屋市副市長松雄さんのお名前があって自署と、括弧自署って書いてあります。この3本線に団体を代表して名前をかける方、この方と会ったからこの文書ができたんですよねということを知っています。

パイプがない人脈がないと言いながら、結局いろんな方を介して会ってこの文章を作られたわけなので、相手方は当然に団体を代表する方とこういう理解、ここを知りたいんです。こういう理解でいいですね。

松雄副市長： それは、議員大変申し訳ありませんけれども、お答えできません。

なぜならばやはり今回の件で障害者の方から私をどういう形で公開するかについて、ご意見を頂戴をいたしまして、その中で文書でやはり公開されると団体の中はもとより、他の関係団体にもあらぬ誤解を与えかねないということでありましたので、その名前は公開できません。

さわだ晃一（公明・西区）： 個別の名前を知っているわけじゃなくてね、この合意文書を作るわけなので、これは例えば今、私は手元にないですけど、その松雄副市長が作成途中だとおっしゃっている文章をお持ちの先生方もいて、その内容とは全く変わっていたとしてもこの形式を見ると、松雄副市長の名前が下に書いてあって、これどう考えても普通最後に署名する形式ですよ。

ここに名前が書ける団体を代表する方と合わない限り、この文章はおそらく作成できないはずなんです。

そういう意味での決定権がある方と合わない限り、この文章を作ったってこれはもう全く意味のない文章になってしまうのでそれはちょっと矛盾が生じます。なので、何か聞きたいかという。個別の名前を教えてくださいというんじゃないかって、そういう団体を代表する方の名前が並んでいるんですよ、そうじゃないとこの文章、このメール不自然ですよ。いかがですか。

松雄副市長： ですから、議員の皆様との少し前提が違うと思うんですけども、今回はお話を聞くということ、そしてフリーにこれからどうしたらいいかといったことを話すのがこの目的でございますので、何か団体の役員代表の方と合意を目指して、この文書を作ったわけではないということでございます。

さわだ晃一（公明・西区）： ちゃんと教えてください。合意を目指さずに作る文書って意味ないじゃないですか。

どんな過程を経たとしても、成案を得たい。つまりそれはもう元々の動機がとんでもない問題を起こしてしまった。

自分は人脈がなかったパイプがなかった初動が遅れた。だからいろんな人を介して何らかの方にお会いをした。

しかもメールは自分から出したねというプレーがあったわけじゃないですか。それを我々はスタンドプレーだと思うんですけど、その中で当然ながらこの事態を打開したいという前提で行動されているということからすると、合意を目ざす内容かどうかは別です。内容かどうかは別だけれども、合意を目指さずして行動することってありえないでしょう。

この中身の文章の合意の過程と内心の目的を混同して喋らないで欲しいんです。

あくまでも合意を目指しての、ごめんなさい、もう1回最初に言いますね松雄副市長のこの一連の行動は、障害者団体と今後きちんと合意を目指して話し合いをしたい、その合意を目指すため、何らかの合意を目指すための行動ではなかったんですか。いかがですか。

松雄副市長： まず、障害者団体等と実施するのは、前から答弁も申し上げておりますように、私ではなくて、私はできないもんですから、これは観光文化交流局がやる形になります。でも、いきなり団体と言っても難しいもんですから、私は今の話で人脈ということを行いましたけどもう、それなりのち、それなりというかですね、障害者の政策を引っ張ってきた方をいろいろご紹介をいただいて、その方とできれば合意はできないしたいと思っておりますけれども、できなくてもいいということ、いわゆる我々のものについてはやっておりました。

委員長 丹羽ひろし（自民・名東区）： まず副市長に申し上げます。ちょっとある質問に対する答えとしては曖昧でありますのでもう少し正確に答えるようにしてください。

横井利明（自民・南区）： 結局ね、この合意文書が、これ皆さんないですよこれ。松雄副市長も何も答えない。

全然これ、ちんぷんかんぷんなんですよこれ、多分聞いている方々、でしょう。

これね、大事なところなんですよ。かといって、私もこの文章を外にこのまま出せば、やっぱり様々な団体の方々にご迷惑がかかるかもしれません私も心配します。これさちょっと秘密会にして、ちょっとやれないかな。

外に出すべきじゃないと僕も思いますから、そういったことをちょっと提案をさせていただきたいと思います。

ちょっとやっぱり皆さんに共有した方がいいと思う。

委員長 丹羽ひろし（自民・名東区）： はい、ただいま横井委員の方から秘密会での実施の方はどうかというようなご意見をいただきましたが、何か他にご意見ありますか。よろしいですか。

ではちょっと正副の方で確認をさせていただきたい、検討させたいと思いますので、この件につきましてちょっと、では一旦ちょっと暫時休憩をさせていただきたいと思いますので。